

水野知昭先生 著書論文一覧

著書 15編

1. 『羽振りの古代思想』, 平成3年1月, 石橋印刷(郡山市) [単著]
2. 「荒ぶる軍勢を統べる神オージン」, 『荒獺師伝承の東西』, 平成11年2月, 名古屋大学文学部 [共著]
3. 「恐るべき母としてのフリッグ」, 『冥界の大女神』, 平成11年2月, 名古屋大学文学部 [共著]
4. “Loki’s Buffonery: The Dialectics of Sagacity and Folly” (英訳版) 「ロキの道化一賢と愚の弁証法一」(邦文版), 『国際シンポジウム: 東西の老賢者』, 平成11年9月, 名古屋大学文学部 [共著]
5. “The Divine Infant Coming over the Waves: An Old Nordic Type of Mare-bitō.” (英訳版) 「海原を渡り来るおさな君: 古北欧のマレビト」(邦文版), 比較神話学シンポジウム『古今東西のおさな神』, 平成12年9月, 名古屋大学文学研究科 [共著]
6. 「北欧の双生神フレイとバルドルー鹿・髪・枝・剣の視点一」, 『ユーラシア神話の比較一神話と文学一』平成13年1月, 名古屋大学文学研究科 [共著]
7. 「異人による聖戦としての竜蛇退治一力の勇者ベーオウルフとソールを中心に一」, 『鬼とデーモン』, 平成13年9月, 名古屋大学文学研究科 [共著]
8. 『生と死の北欧神話』, 平成14年6月, 松柏社, 単著
9. 「巫女の予言」抄訳と略註, 『神話・象徴・文学II』, 平成14年9月, 楽浪書院 [共著]
10. 「不死鳥の歌なんか聞こえない一海のかなたの楽園と古ゲルマンの選民思想一」(邦文版) “The Song of the Phoenix is Gone Unheard: The Paradisal Field beyond the Ocean and the Old Germanic Idea of Select Warriors.” (英訳版), 『竜宮・蓬莱・アヴァロン島』, 平成14年9月, 広島市立大学 [共著]
11. 『北欧とギリシアの神話伝説における異人論』, 平成11~13年度科学研究費補助金: 基盤研究(C)(2)「研究報告書」, 平成16年9月 [単著]
12. 「古北欧の太陽舟と太陽馬車の信仰」, 『太陽神の研究』下巻, 平成15年3月, リトン [共著]
13. 「「巫女の予言」にみる運命と月の思想」, 『生と死の神話』, 平成16年6月, リトン [共著]
14. 「水界の怪物たちに投影された戦士ベーオウルフの三つの罪」(邦文版) “The Three Sins of Beowulf Mirrored in the Water-Monsters.” (英訳版), 『海の神話一神々と怪物』, 平成16年9月, 広島市立大学 [共著]
15. 「洪水と漂流の終わりにカラスが」, 『世界の洪水神話一海にうかぶ文明一』, 平成17年1月, 勉誠出版 [共著]

学術論文 55編

1. 「Beowulf の冥界下降譚—その起源への一考察—」, 『試論』第17集, 昭和52年11月, 東北大学英文学研究室刊 [单著]
2. 「Beowulf における〈渦〉なす悲哀」, 『文化』第41巻3・4号, 昭和53年3月, 東北大学文学会 [单著]
3. 「螺旋文の意味するもの—その始源から形成まで—」, 比較文学同人誌『エポス』第3号, 昭和53年7月 [单著]
4. 「ロキ神の原像」, 比較文学同人誌『エポス』第4号, 昭和54年8月 [单著]
5. 「ゲルマン人の宇宙創成論における月神崇拜」, 『日本大学工学部紀要』分類B第22巻, 昭和55年3月 [单著]
6. 「バルドル神話における死と再生の儀礼」, 比較文学同人誌『エポス』第5号, 昭和55年8月 [单著]
7. 「バルドル殺害神話の形成—大地母神と運命女神崇拜—」, 比較文学同人誌『エポス』第6号, 昭和56年8月 [单著]
8. 「グルヴェイグをめぐる神々の闘争」, 『日本大学工学部紀要』分類B第23巻, 昭和57年3月 [单著]
9. 「風, 海そして火の神ニョルズ」, 比較文学同人誌『エポス』第7号, 昭和57年9月 [单著]
10. 「古ゲルマンの楽園の原風景」, 東北大学文学会『文化』第47巻3・4号, 昭和59年2月 [单著]
11. 「原始・古代ヨーロッパにおける女性彫塑像の「手」の歴史」, 比較文学同人誌『エポス』第9号, 昭和60年1月 [单著]
12. 「ヨーロッパ後期旧石器時代の「母偶」が意味するもの」, 東北大学文学会『文化』第48巻3・4号, 昭和60年2月 [单著]
13. 「神々の犠牲者としてのバルドル—「北欧マレビト考」への序章—」, 『日本大学工学部紀要』分類B第27巻, 昭和61年3月 [单著]
14. 「バルドル殺害者ロキの三態」, 『日本アイスランド研究会会報』5号, 昭和61年3月 [单著]
15. 「旅する客神ロキの神話—その(1)—」, 『日本大学工学部紀要』分類B第28巻, 昭和62年3月 [单著]
16. 「旅する客神ロキの神話—その(2)—」, 『日本大学工学部紀要』分類B第28巻, 昭和62年3月 [单著]
17. 「古北欧「異人による蛇神殺し」としてのバルドル神話」, 『口承文藝研究』第10号, 昭和62年3月 [单著]
18. 「悪しき者なるかなベーオウルフ—異人と誤射伝説の周辺—」, 『試論』第26集, 昭和62年7月, 東北大学英文学研究室刊 [单著]
19. 「バルドル神話劇」前編, 比較文学同人誌『エポス』第10号, 昭和62年12月 [单著]
20. “Beowulf as a Terrible Stranger”, The Journal of Indo-European Studies, Vol.17, No.1 & 2, 1989 [单著]

21. 「はじめに鳥ありき」, 比較文学同人誌『エポス』第11号, 平成2年3月 [单著]
22. 「八咫鳥と常世浪」, 比較文学同人誌『エポス』第13号, 平成4年6月 [单著]
23. 「万葉の鳥歌一滅びへの予感」, 比較文学同人誌『エポス』第14号, 平成5年7月 [单著]
24. “The Gefjon Story and Its Magical Significance in Gylfaginning”, 『日本アイスランド学会会報』第13号, 平成6年5月 [单著]
25. “Praise and Blame Directed at Beowulf”, 『東北大学言語学論集 中村完教授退官記念号』第4号, 平成7年9月 [单著]
26. “Loki as a Terrible Stranger and a Sacred Visitor”, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第30号, 平成8年3月, 信州大学人文学部 [单著]
27. 「神武東征伝説における兄弟対立の構造—「嘯き登る」呪術行為について—」, 比較文学同人誌『エポス』第16号, 平成8年9月 [单著]
28. 「客人款待神としてのオージン」, 『ユリイカ』2月特集号, 平成9年2月, 青土社 [单著]
29. “The Applicable Theories and Cruces of Gift-Giving in Beowulf: From the Guest-Friendship Perspective”, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第31号, 平成9年3月, 信州大学人文学部 [单著]
30. 「はじめに鳥ありき—「鳥をめぐる神話伝説」序論—」, 『夕べのセミナー報告集』第3集, 平成9年5月, 信州大学人文学部 [单著]
31. 「ロキの笑劇についての民俗学的な考察」, 『日本アイスランド学会会報』第16号, 平成9年5月 [单著]
32. 「王の犠牲と豊饒: 北欧と日本とギリシアの事例」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第32号, 平成10年3月, 信州大学人文学部 [单著]
33. 「古北欧の「流され王」伝説」, *The Round Table*13号, 平成10年4月, 慶応大学文学部: 高宮研究室刊 [单著]
34. 「来訪神ヘイムダルと王権の成立」, 『説話・伝承学』6号, 平成10年4月, 説話・伝承学会 [单著]
35. 「ヴァイキングの鴉の軍旗と神武皇軍の八咫鳥」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第33号, 平成11年3月, 信州大学人文学部 [单著]
36. 「馬に乗る神々と世界樹トネリコ」, 『日本アイスランド学会会報』第18号, 平成11年5月 [单著]
37. “The Magical Necklace and the Fatal Corslet in Beowulf”, *English Studies* 80, No. 5, 1999 [单著]
38. “Othin who Presides over the Raging Army”, *IRIS (Univ. Grenoble3)*, Nr. 18, 1999 [单著]
39. 「北欧教会建立伝説の成立背景」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第34号, 平成12年3月, 信州大学人文学部 [单著]
40. 「古北欧の「中つ国」と「根の国」」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第35号, 平成13年3月, 信州大学人文学部 [单著]

41. 「求愛の使者スキールニルの旅—フレイとバルドルを繋ぐもの—」, 『日本アイスランド学会会報』第20号, 平成13年5月 [单著]
42. “Loki’s Buffoonery: The Dialectics of Sagacity and Folly”, IRIS (Univ. Grenoble3), Nr. 21, 2001 [单著]
43. “The Conquest of a Dragon by the Stranger in Holy Combat: Focusing on the Mighty Hero Beowulf and Thor.”, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第36号, 平成14年3月, 信州大学人文学部 [单著]
44. 「民会と決闘の野原—古ノルド語 vangr と völlr および leikr の考察—」, 『言語学論集』第11号, 平成14年9月, 東北大学言語学研究室 [单著]
45. “The Divine Infant Coming over the Waves: An Old Nordic Type of Mare-bito Figure”, IRIS (Univ. Grenoble3), Nr.23, 2002 [单著]
46. 「『ヴォルンドの歌』にみる円環詩法」, 『信州豊南短期大学紀要』20号, 平成15年3月 [单著]
47. 「不死鳥の歌なんか聞こえない—海のかなたの楽園と古ゲルマンの選民思想—」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第36号, 平成15年3月, 信州大学人文学部 [单著]
48. “Ring Composition and Circular Narrative Structure in Eddic Poems”, Scandinavia and Christian Europe in the Middle Ages, 2003 [单著]
49. “The Dragon Conquest as a Holy Combat for the Stranger: Focusing on Beowulf and Thor”, IRIS (Univ. Grenoble3) Nr. 25, 2003 [单著]
50. 「異人による聖戦としての竜蛇退治—力の勇者ベーオウルフとソールを中心に—」, 『アジア遊学』59号「特集: 鬼とデーモン」, 平成16年1月, 勉誠出版 [单著]
51. 「漕ぎ手なき舟にて漂うて—海に葬送される王者たち—」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科>』第37号, 平成16年3月, 信州大学人文学部 [单著]
52. 「殺しの武器を供与する賢者たちの群像」, 『アジア遊学』68号, 平成16年10月, 勉誠出版 [单著]
53. 「『巫女の予言』にみる円環詩法と異人來訪のテーマ」, 『信州豊南短期大学紀要』第22号, 平成17年3月 [单著]
54. 「滅びゆく神々への哀歌—「巫女の予言」の語りの構造—」, 『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第39号, 平成17年3月, 信州大学人文学部 [单著]
55. 「異界の川を渡る神々と勇者たち—オデュッセウス, ヘラクレス, ソール, およびスサノヲと大国主の求婚説話—」, 『世界の神話から見た因幡の白兔』, 平成17年5月, 鳥取大学地域学部 [单著]

その他 7編

1. “Formulae and Metaphorical Expressions in Beowulf”, 東北大学大学院文学研究科修士課程 (言語学専攻), 昭和50年3月 [单著]
2. 「六つのイタリア絵画・彫刻をめぐる随想」, 比較文学同人誌『エポス』第8号, 昭和58年12月 [单著]

3. 「土地の境を守る水の女神かまくら」, 『かまくら春秋』 280号, 平成5年8月, 春秋社
[单著]
4. “Old Yule Festivities in Scandinavia”, Anritsu News, Vol. 19, No. 95, 平成11年12月
[单著]
5. “Fire and Water in the Irish Festivals”, Anritsu News, Vol.20, No. 97, 平成12年6月
[单著]
6. 「北欧の神々と世界蛇の闘争神話」, 『アジア遊学』 「特集：ドラゴン・ナーガ・龍」 28号, 平成13年6月, 勉誠出版 [单著]
7. [書評] “Review of Beowulf and the Dragon: Parallels and Analogues, by Christine Rauer”, Studies in Medieval English and Literature No. 17, 平成14年8月, 日本中世英語英文学会 [单著]